

60 名古屋帝国大学初代総長澁澤元治関係資料

澁澤元治（1876－1975）は、「日本の近代資本主義の父」といわれる澁澤栄一を叔父にもつ人物で、戦時下の多難な時代に創設された名帝大の初代総長（1939－1946）として、草創期本学の基礎づくりに尽力しました。

澁澤は、東京帝国大学工科大学（電気工学科）を卒業後、叔父栄一に随行して欧米を外遊し、帰国後は通信省に勤務しました。この通信省時代に工学博士学位を取得し、のちに東京帝国大学教授を兼任しながら通信省電気局技術課長に任命されていた時期もありました。

澁澤の生涯等については自著『五十年の回顧』（1953）・『思い出の随想』（1974）のほか、手近なものとしては大学文書資料室発行の名大史ブックレット6（デジタルブック版・冊子版）などで知ることができます。

1955（昭和30）年、澁澤は電気事業行政および電気工学技術の研究教育における功績が評価されて、電気関係者として初めて文化功労賞を受賞しました。この受賞を契機に

有志によって「澁澤元治博士文化功労賞受賞記念事業委員会」が設置され、翌56年に「澁澤賞」が創設されて今日に至っています。

澁澤元治の没後10年にあたる1985年、ご遺族が深谷市の澁澤生家敷地内に、日本語教育や国際親善などを目的とした外国人留学生のための「澁澤国際学園」が開校しました。そしてこの学園のなかに「澁澤元治記念館」が設置され、澁澤元治が生前使っていた机・椅子などの品々や蔵書・アルバム・書簡などが保存展示されていました。

その後、同記念館はご遺族が他界されたこともあって、2000年の春に閉館となりました。閉館後、残された資料の保存管理が問題となりましたが、多くの関係者の協力もあって2001年3月にその資料が名古屋大学に寄贈されることになり、現在は大学文書資料室がその管理を行っています。なお、大学文書資料室では、今年度からこの澁澤関係資料の一般公開を行っています。



2

1 | 3 | 4

- 1 名大史ブックレット6
(デジタルブック版は<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/booklet/>)
- 2 「澁澤元治記念館」看板（たて約50cm×よこ約180cm）
- 3 澁澤元治記念館内の展示のようす
- 4 大学文書資料室に移管された澁澤元治関係資料（一部）